

第 32 回定時株主総会における質疑の概要

(2021 年 6 月 28 日開催)

●質問 1

経営体制が刷新されたが、当社が大切に守っていくべきものと、一方で、変えていくべきものについての議長の考えを聞きたい。

回答（回答者 松崎社長）

守っていくべきものとしては、経営理念である「真心と美意識をこめてお客様の明日を創り、生活文化のスタンダードを創造し続ける。」を追求することであるが、特に、「真心と美意識」という表現を重視しており、この価値観を元に様々なドメインに挑戦したいと考えている。また、変えていくべき点は、意思決定に保守的な面が見られ、リスクを取らない社風になっている印象を持っている。より積極的にチャレンジすることを評価する体制に変革をしていきたい。

●質問 2

退任する中井取締役が担ってきた社内システム刷新の進捗状況および今後のDX（デジタルトランスフォーメーション）化の体制をどのように考えているか。

回答（回答者 松崎社長）

社内システムの刷新については一定のゴールが見え、順調に進められている。また、自社EC（イーコマース）サイトのシステム開発についてもサイトの一時停止などご心配をおかけしたものの、本年度中のリニューアルの目途が立っている状況である。DX化については社外から知見のあるスタッフを招聘しており、より一層の推進を図っていきたい。

●質問 3

昨期開始したエントリープライスブランドの進捗状況および今後の戦略について聞きたい。

回答（回答者 松崎社長）

昨期、EC専用のレーベルとして複数のエントリープライスのブランドを開始したが、お客様が店頭で触れていただく機会が無いことが影響し、大きく伸長するに至っていない。今後は一部店舗で販売するなど認知度を高めていく。また、「CITEN」という価格帯のみならずサステナブルな領域を意識したブランドの展開を開始し、若年層を含めた顧客の裾野を広げる取り組みを進めていく予定である。

●質問 4

当社の監査等委員会を構成する社外取締役の役割と期待をしている点について聞きたい。

回答（回答者 松崎社長）

監査等委員においては、当社のビジネスや経営状況を俯瞰し、当社の課題に関する指摘をいただくなど、取締役会の意思決定に対する有意義な提言を受けている。今後も、監査等委員会の機能を強化し、ガバナンスの視点をより強めた経営を進めていきたい。

以上